

毎日歌壇

伊藤 一彦 選

米川千嘉子 選

加藤 治郎 選

水原 紫苑 選

手ひの絶えぬ集落 駄菓子屋にアイスクリーム
ディー購ひにけり 雲南市 熱田 俊月
△評▽上と下の句の構成が巧みで心に残る。結びの「にけり」も生きています。長く親しまれた店の主をしのぶ気持ちが伝わる。

私の飲む発泡酒には寄りつかず嫁のビールで
駆除するナメクジ 金沢市 竹内 一二
△評▽ナメクジはビールの臭いが好きだ。

発泡酒とビールの対比がユーモラス。

弱りゆくかつて暴れた父さんをじっと見ている
なにごの気持ち 枚方市 坊 真由美
加害者も弱者の一人おのれより弱き命を奪う
悲しさ 静岡市 安藤 勝志

トランプの大きな話に鈍る銃禁止令なぜ
ださぬのか 城陽市 藤宮 幸房

関西に住む大阪万博をよそに聞くのみカジ
ノの不安 神戸市 中林 照明

酒を三、醤油二、味噌二わが煮る鯛大根
に尻らぬ昭和 所沢市 里見 脩一

鮎の眼に如何に映るや時勢にて変わり行きた
る清流の底 須崎市 野中 泰佑

急患は危機脱すらし夜半の室にナース声弾む
手を取り合ひて 八王子市 関山 正雄

温もりの残るバトンを手のひらに君を感じて
今走り出す 宮崎 門田 藍子

「テレビっ子」自負して昭和に育ちたるわたし
もテレビ社会も老いぬ 静岡市 柴田 和彦
△評▽日本のテレビ放送は1953年から。その前後の時代の、「テレビっ子」にあたる言葉は何か、なども考える。

私からシュシュって言葉出る時は女性の今世
楽しんでる日 鳥取市 中之島 潤

△評▽髪を束ねてふんわり飾るシュシュ。

その仕草に宿る心も言葉の音も柔らか。

日焼けした手をかざしたら水掻きの白い三角
四つあらわる 長岡市 三月 とあ

あの頃は駅の新聞スタンドの赤い見出しが炎
上晒し 東京 佐藤 一郎

銭別の文鎮は照る蛇紋岩磨きし彼は逝きて三
十年 瑞穂市 渡部 芳郎

人としてマイウェイを生きてきた死者を数で
は理解したくない 前橋市 西村 晃

裏庭の小さきベンチは鶯を待つわだけの
黄金の椅子 成田市 神郡 一成

卒論とトトロを同じ箱に入れ娘は一つのピリ
オドを打つ 浦添市 座間味れい子

バスに花咲く色のランドセル五つ並んで
紫陽花育つ 野田市 片倉 伸明

さくら貝あなたの指を思ひをりうすくひろが
る嘘の浅瀬に 大津市 碧乃 そら

庭中の薔薇という薔薇すべて咲きひとりも兵
士戻らない春 横浜市 井上 登
△評▽完璧な戦場を想像させる。兵士は全
員戦死するのだ。上句は暗喩として読むこ
とができるだろう。真っ赤なバラである。

振り向くな俺の人生振り向くなこれから先は
みじかく長い 大阪市 吉田 昌之

△評▽上句が深い。人生という言葉に重み
を感じる。下句の思ひは深い。実感だ。

凡庸な天才どものこしらえた世界がこんなに
我に冷たい 広島市 堀 眞希

秋の波みたいに今日も終わって 三十歳ま
であと何日だ 名古屋 森本 有

備忘録かき終わるまで透明な道路を走る5ト
ントラック 平塚市 芝澤 樹

獺が来て食べた悪夢の抜け殻が画面の隅にす
こし残って 所沢市 里見 脩一

うたいたいようにうたうさ幼稚園の保護者リレーで
ヘッドスライディング 春日部市 宮代 康志

美しさよりも強さを手にしたい。(日本在住
40代女性) 横浜市 友常 甘酢

石像として生きてゆく運命を祝福されるなん
て悲しい 津市 川原田明子

ココアを飲むための湯でさえたしには味方し
ないような気がする夜 広島市 白岩 青依

(私のこと好きだから踏み潰さないよね)タンポ
ポ今朝もちりと見上ぐ 甲府市 村田 一広
△評▽人はある日、こうしてタンポポの声
を聴く。それから何が始まるのか、もう振
り返ることはできない。永遠の黄色。

雪ばかり描いてなくなるクレヨンはきつと白
ではないんだろ 所沢市 里見 脩一

△評▽雪は何色か。黒い時も赤い時もある。
クレヨンは雪を描いて本当の自分に還る。

奪われたという心だけあり何をかはわからぬ
ままに燃えていく森 宮古島市 堀見 伴

言いさしを繰り返すうちに私たち未完成シン
フォニーを奏で 横浜市 砂月 七

人間は支配を望むほろごどの星座にもある
α星 名古屋 浅井 克宏

街路樹の樟ひとつ伐られおり切株に十字い
くつもつけて 千葉市 佐藤 綾子

「星をひとつ落とすとしたらどれにする？」
一番遠い星を指さす 東京 仲原 佳

南天の話をしたい召命はいつも上から来るの
ではなく 豊橋市 太田 貴大

干からびた過去にあなたが触れてから私の過
去はずっと湖 川崎市 二宮 珊瑚

蝶々の粉を額に付けたまま川の光と僕は震
えて 岡山市 松井 度

毎日新聞からのお知らせ

ネット投稿 毎日IDが必要に

6月30日から毎日新聞デジタル経由で歌壇・俳壇に投稿するには毎日ID(登録無料)でのログインが必要となります。ログインすると登録した名前や住所などが投稿

フォームに自動で反映され、便利になります。筆名(ペンネーム)での投稿も可能です。ネット投稿は1週間(月曜0時~日曜23時59分)に1回、はがき同様2作品までとします。同じ週に2回以上投稿すると最後の投稿のみが有効となります。これまで通り、はがきでも受け付けます。

毎日IDの登録ページは<https://mainichi.jp/signup/accounts/free/signup/>。